

湯河原へゆつゆつの里へは、両親のいた別荘のようなところ。 主人亡き後は私の居場所になりました

湯河原へゆつゆつの里へ

小寺紀子様(82歳) 平成29年5月 一人入居

お見合い相手は父とはちよっと
違う、白馬の王子様

女の子はお嫁さんになるために
学校に行くものという時代だった
ので、自分と妹は私学で女の子ら
しく、弟は公立から東大に入るも
のというのが父の考えでした。私
の父も、主人の父も日銀で共通の
知人がおりました。その知人の三
男のところへ嫁いでいた叔母が、



カナディアンロッキーにて、ありし日のご主人と

主人の母に取り持ってくれてお見
合いとなりました。主人は日本興
業銀行で30歳、私が25歳でした。
第一印象は無骨でワンマンな父と
比べると貴公子然としていて、昔
夢見た「白馬に乗った王子様」に
近くていいなと思いました。主人
は上手に女性を扱う人ではなかつ
たので、デートの時は二人の間に
3人入っちゃうくらい離れて歩
きました。初のデートの映画は
「101匹わんちゃん大行進」で
すよ。友達は「なんて言うデート
なの!」と呆れていました。

コンサート、旅行、写真も 夫唱婦随

主人は穏やかな人でした。一回
も怒った姿をみたことがないし、
一度も夫婦喧嘩をしたことがあり
ません。主人はクラシックが大好
きで、年末になるとベートーヴェ
ン第9のコンサートに行きまし
た。毎年11回くらい行っています。
そのうち2、3回は私も一緒に連
れて行ってもらいました。子供が
いなかったので、旅行に行く時は

いつも二人でした。全て主人が一
人で決めていました。花の時期に
は主人は観光協会に開花状況を問
い合わせ、急に「明日行くぞ」と
いう感じでした。桜や四季の花を
撮る写真が趣味で、撮影に行く時
は私が助手になって重たいカメラ
を担いでくっついて行きました。

主人を亡くしてからの居場所

平成25年11月、主人が82歳のと
き「声が嘎れる、食事が呑み込め
ない」と言うので病院で検査をし
たら、食道がんのステージIVでし
た。余命3ヶ月と告げられ、主人
は突然の宣告にも「分かりました。
考えます」と動じませんでした。
私は取り乱してしまいました。高
齢のため手術ではなく放射線治療
を選択しましたが、3カ月半の内
に亡くなりました。その時は、苦
しまずに逝ったことがせめてもの
救いだっただと感じました。

主人はホームに入ることなど全
く考えなかった人です。主人が亡
くなった後、途方に暮れた私は、
両親の住んだ湯河原へゆつゆつの
里へ入居することを決めまし
た。両親は子供を頼ることなくこ
こに入居しておりましたが、「嫌
なことがない」と聞いていまし



た。両親
の別荘み
たいな感
覚で時々
訪れてい
たことも
あって、
不安なく決めることができたので
す。主人の居なくなった東京にい
ると、いつまでも気持ち騒ぎま
したので、ここいる方がむしろ良
かったです。ここではないかと感じていま
す。

コロナ禍でも寂しくない

今は、ジムでトレローニング、散
歩に、時々パークゴルフを楽し
んでいます。パークゴルフに誘っ
てくれるご夫婦、散歩仲間、お風
呂仲間、ジム仲間と色々な方
どのお付き合いがあつて面白いで
す。ブリッジを一人でする時もあるし、本を読んだり、主人の好きなCDを聞いたり一人の時間も大切にしていきます。ブリッジは主人の影響で始めましたが、運にかけるところが少なく、良いカードがこなくても勝てるところが面白いです。

コロナ禍でもここにいと寂し
くなることはありません。それで
も、コロナが収束したら、東京の
友達や妹達にも会いたい。ゴルフ
も仲間と再会してやってみたいな。